

今月の安全運転管理

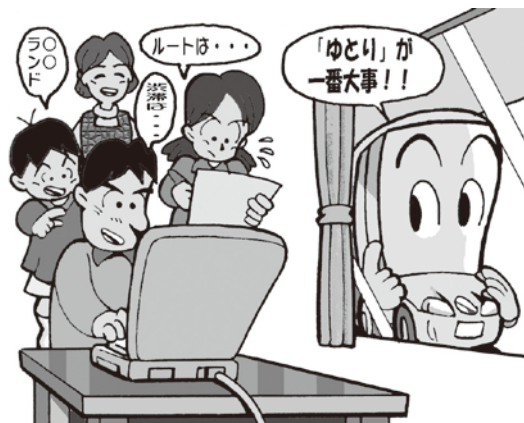
行楽期 ゆとりある計画で 事故はゼロ

①夏の交通事故防止に取り組もう

- ゆとりある運転計画を立てよう
- 熱中症対策を指導しておこう

②夏場の飲酒運転防止を推進しよう

- 行楽地での飲酒運転防止を指導しよう



ゆとりある運転計画を 呼び掛けよう

夏本番の本格的なレジャーシーズンに突入します。お盆には家族や仲間らと一緒に車での旅行を計画している従業員も多いと思います。

旅行やレジャーでの運転は長時間・長距離になりやすく、疲労の蓄積により、漫然運転や居眠り運転に陥りやすくなったり、予定時間に間に合わせようとして、スピード超過や強引な割込みをしたりするなど、事故の危険が高くなります。

従業員に対して、道路事情による速度低下や、交通規制による運転時間の延長などを見込んだ、無理のないゆとりある運転計画を立てるよう指導しておきましょう。

また、漫然運転や居眠り運転を防止するために、二時間に一度のペースで必ず休

憩をとるように呼び掛けておきましょう。

熱中症対策を指導しよう

熱中症とは、体温が上がリ、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温の調節機能が働かなくなること、体温の上昇やめまい、けいれん、頭痛などのさまざまな症状を起こす病気のこと、毎年死亡者が出ています。

熱中症の基本的な予防方法は、こまめな水分補給です。のどの渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分を補給することを指導しましょう。

運転中に体調が悪くなった場合は、ただの夏バテだと甘く考えず、一度、運転を中断して管理者に連絡するよう指示しておきましょう。

旅先での飲酒運転根絶を 指導しておこう

旅行や帰省などが多いこ

の時期に注意しなければならぬのが飲酒運転です。

非日常を過ごすなかで、ついでに大きくなって飲酒し、少し休憩した後「もう酔いは覚めただろう」と、運転をはじめて事故を起こすケースが少なくありません。

どんな場合でも、飲酒運転は厳禁であることを周知しておきましょう。

併せて、飲酒運転の危険性や厳しい罰則、飲酒運転がもたらす不幸の連鎖等も紹介してください。

また、前日のアルコールが抜けきってないまま運転して検挙される事例（二日酔い運転）もあります。

アルコールが完全に身体から抜けるには、想像以上の時間がかかります。旅先での深酒は避けて、節度ある飲酒を心掛けましょう。